

せんぼ通信 No.2

ば・あ・や・の・う・け・う・り

「願う」

玄侑宗久さんは、いいですね・・・ありがたいですね。僧侶、作家として有名ですが、東電の原発事故のあとテレビ、新聞、本で福島県民のおもいを、いろんな角度から発信してくださっています。

特に子育て中のお母さん達の不安を代弁してくださるのは、とても心強いですね。

いつの世もひとたび事変がおれば、苦労するのは、若い女性と子供たちですから・・・

その玄侑さんが、「今、夢とか希望とかの言葉があふれている・・・それも大事ですが、もう一つ大事なのが『願う』ことです」と、話していました。

お坊さんだもの当たり前・・・なんて思うかもしれませんがね。でも・・・でも・・・誰でも「神様、仏様、〇〇お願いします」と願う時は、真剣ですよ。だから、目に見えなくても、手を合わせ、目を閉じ、頭を垂れて心からお願いしますね・・・

そういう心がけが、夢や希望にむかって、がんばれる力を・・・ふんばれる力を・・・生みだしてくれるのかなあ・・・と玄侑さんのお話からおもいました。

やんちゃ坊主の孫が、小学校1年生の頃、学校からかえってきて、

「今日のおかずなあに？」・・・シチューだよ。

「やったー、シチュー食べたくておねがいしていたの」・・・だれに？

「かみさまに」・・・どこで？

「ぼくのこころのなかで」・・・え～そうだったの、よかったね、かみさまがいて。

ということは・・・キミのかみさまに使われたわけですね・・・

新しく担当になった若い営業マン。うちの冷凍ショーケースをみて、「ああ・・・このから揚げ・・・」と言って、しばしながめている。もしかして、おふくろの味？・・・と黙っていたら、複雑な笑顔で「このから揚げ・・・あの原発事故の時・・・福島には配送できないって言われて・・・僕、トラックで・・・宇都宮まで取りに行って来たのです・・・」そうだったのね・・・

悔しかったでしょう・・・

怖かったでしょう・・・

逃げたかったでしょう・・・

あの時、福島のお店はラッポ状態、おおぜいの人達が努力してくれました。

自社の利益だけでなく
お客様のために。



3才の春 かみさまのこえきこえる？